

我が県土
支え育む
希望郷



美しい 県土づくりNEWS

目次

- 2 築川ダム建設工事 定礎式を開催！
- 4 平成 28 年台風第 10 号「発災から 1 年」
復旧・復興事業への取組
- 6 立丸第一トンネルの貫通式を開催！
- 8 釜石港でガントリークレーンの供用を開始
- 9 建設 ICT 現場見学会&講習会を開催しました

2017 年

9 月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第 158 号
平成 29 年 9 月 29 日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

祝 築川ダム定礎 ～工事の安全と完成後の安泰を祈念～

9月7日、県が建設を進めている「築川ダム」において、完成までの安全な施工とダム完成後の安泰を祈念する「定礎式」を開催しました。今年度からダム本体のコンクリート打設が本格化しており、今回の定礎式の運びとなったところです。

式典では達増知事の「定礎宣言」の後、「定礎の儀」を執り行いました。今後、平成 32 年度の完成を目指して、一日も早く、そして安全に工事が完成するように取り組んでいきます。



礎石の埋納後、関係者列席のもとくす玉を開披



築川ダム建設工事 定礎式を開催！

河川課
築川ダム建設事務所

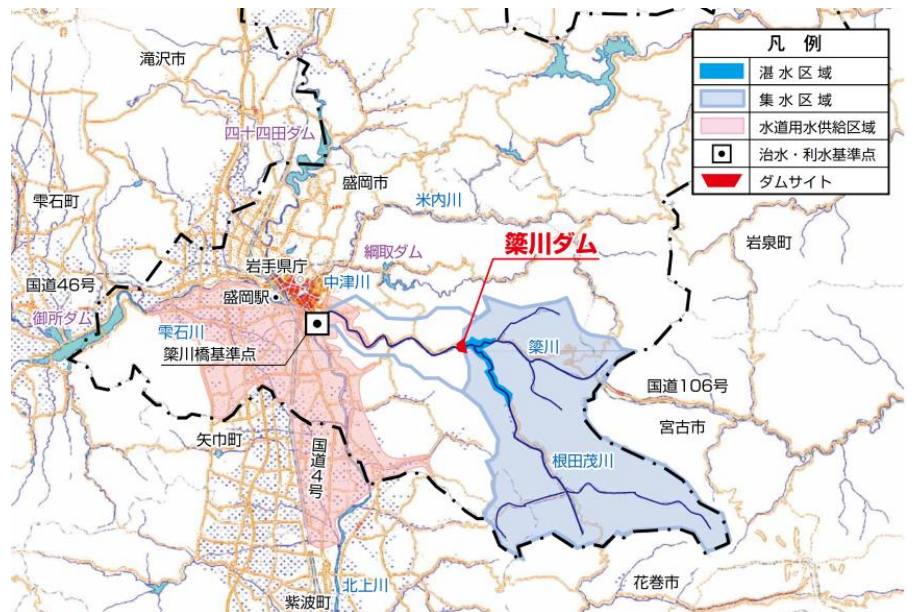
1 これまでの取組

築川ダムは、北上川と築川の合流点より約12km上流に位置し、**築川の治水対策、盛岡市及び矢巾町の水道用水の確保、発電、流水の正常な機能の維持**を目的として建設する多目的ダムです。

ダム事業は昭和53年度から調査に着手し、平成25年に付替道路の国道106号「築川道路」(復興道路)が開通し、ダム本体工事は平成26年に工事契約となりました。これまで基礎掘削工事や、ダムコンクリートを製造運搬する仮設備工事などを進めてきましたが、これらの工事が完了し、今年4月1日の初打設式を経て今回の定礎式となりました。

(計画諸元)

型 式	重力式コンクリートダム	
堤 高	77.2m	
堤 頂 長	249.0m	
堤 体 積	228,480m ³	
総貯水容量	19,100千m ³	
有効貯水容量	16,700千m ³	
湛水面積	0.97km ²	
総事業費	530億円	
工 期	平成32年度完成予定	



2 定礎式の様子

定礎式で埋納した礎石は、ダム建設現場から産出した珪質粘板岩で、礎石に刻まれた文字は達増知事が揮毫(きごう:毛筆で文字を書くこと)しました。

南部火消伝統保存会の木遣り唄にあわせ県職員とJV職員により礎石が運搬され、達増知事、谷藤盛岡市長、高橋矢巾町長、国交省黒川水資源部長により礎石を鎮定(ちんてい:礎石をダムに接合すること)しました。



礎石を搬入する県職員とJV職員



知事、盛岡市長、矢巾町長、国交省水資源部長による鎮定

礎石の埋納には、総合学習として「ダムのおはなし&築川いきもの調査」を毎年一緒に活動している中野小学校5年生の代表児童6人も参加しました。中野小児童のみなさんの将来の夢や希望を書いたメモリアルストーンも埋め込み、代表児童の将来の夢や希望をインタビューで聞きました。「家族が笑顔で暮らして長生きしてほしい」など、みんなの願いが築川ダムに込められました。



中野小5年生への将来の夢や希望をインタビュー

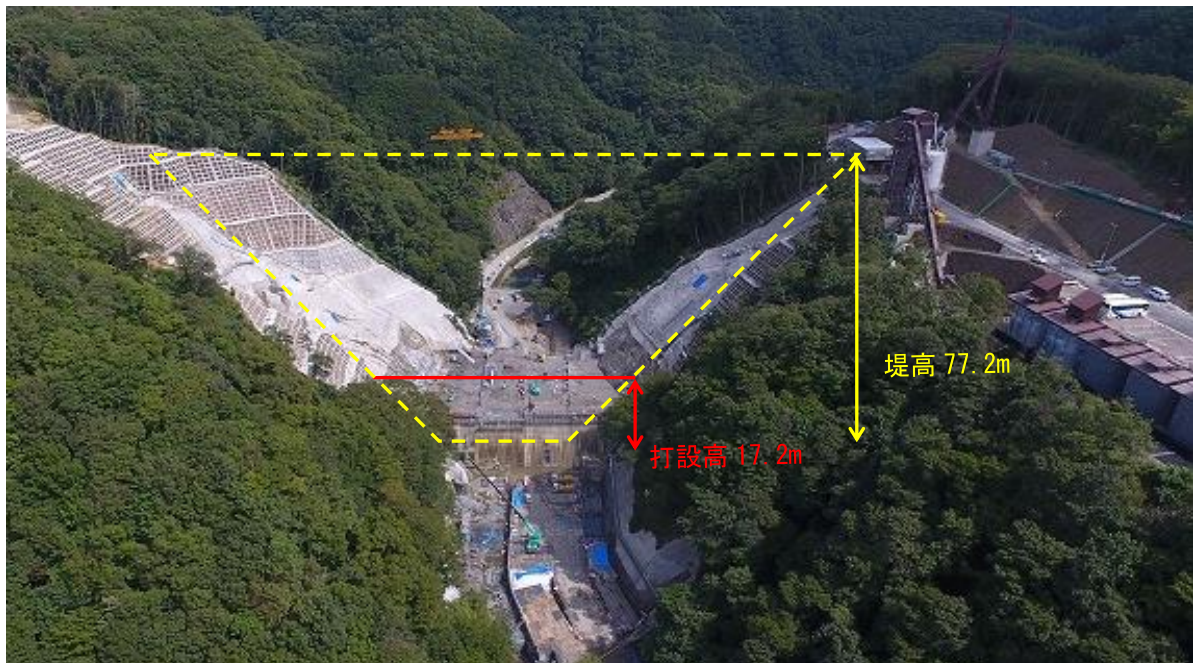


礎石の傍らに中野小児童のメモリアルストーンも埋納

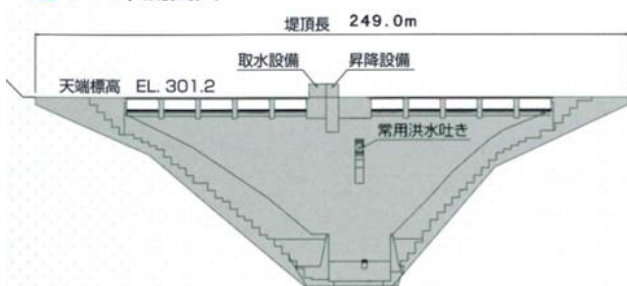
3 築川ダムの完成に向けて

平成29年9月末現在で河床部から17.2mの高さまでコンクリート打設が終了し、全体高さ77.2mに対する進捗率は22%となりました。平成31年までに約23万m³のコンクリートを打設していきます。

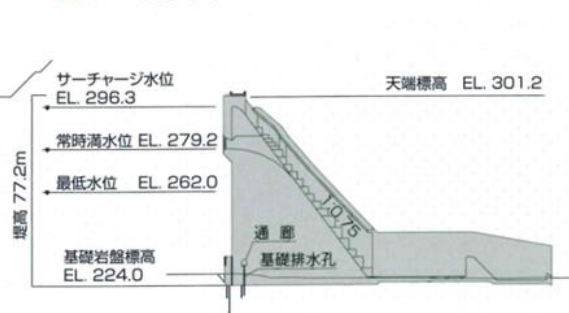
築川ダムが安全で快適な郷土の創造と地域の更なる飛躍に寄与できるよう、平成32年度の竣工に向けて鋭意取り組んでいきます。



■ ダム下流面図



■ ダム断面図



平成 28 年台風第 10 号「発災から 1 年」 復旧・復興事業への取組

沿岸広域振興局土木部 岩泉土木センター



気象庁の統計開始後初めて、太平洋沿岸に上陸した、台風第 10 号の災害から 1 年が経過しました。犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、いまだ応急仮設住宅などで不自由な生活を余儀なくされている方々をはじめ、被災者の皆さまに心からお見舞いを申し上げます。また、県内外から復旧・復興を支援してくださっている大勢の皆さまに深く感謝申し上げます。



台風第 10 号豪雨災害犠牲者追悼慰霊式
(平成 29 年 8 月 30 日)

岩泉土木センターでは、甚大な被害を受けた被災地の早期の復旧・復興のため、発災当初から、被災した河川、道路、砂防施設等の復旧・改修に取り組んできました。少しずつではありますが、復旧・復興の槌音が聞こえ始めてきましたので、現在の主な取組状況についてお知らせします。

■ 河川

河川関係においては、43 箇所の災害復旧事業のほか、小本川、清水川、安家川の一部区間において、河道の拡幅、掘削や築堤等の河川改良復旧事業が進められています。

河川改良復旧事業の推進に当たっては、地域の皆さまの意見を取り入れながら河川計画の策定を進めています。これまでも、岩泉町内各地区において意見交換会をきめ細かに開催したところであり、引き続き、地域の皆様や関係機関と一体となり、被災河川の早期の復旧及び災害に強い河川整備を進めていきます。



小本川の出水状況 (H28.8.31 乙茂地区)



意見交換会の様子 (H29.7.25 乙茂地区)

■ 道路

道路関係においては、143 箇所の災害復旧事業を進めており、交通量の多い国道 455 号を中心に復旧工事を進めています。(9月末現在で 20 箇所(14%)に工事着手)

当センター管内においてはピーク時で 10 箇所が全面通行止めとなりましたが、国土交通省をはじめ、各関係機関等の応急復旧支援により、早期に通行止めが解除され、現在では一般県道普代小屋瀬線鈴峠(葛巻町境)の 1 箇所のみとなっています。引き続き、安全で円滑な交通の確保のため、早期の復旧に向けて取り組んでいきます。

【国道455号二升石地区の災害復旧状況】



一般国道455号二升石地区では、早期の片側交互通行解除に向け、道路護岸を復旧するための仮設道路工事を進めています。

■ 砂防

砂防関係においては、土石流により人家等への被害が大きかった25箇所について、砂防堰堤の整備を進めています。

早期の堰堤整備に向けて、引き続き、事業説明会の開催や事業用地の取得等に取り組んでいきます。



～沿岸広域振興局土木部岩泉土木センターへの問い合わせ先～

【TEL】0194-22-3116 (道路、用地 合庁4階)

0194-22-2890 (河川海岸、港湾砂防、河川復旧 合庁2階)

【E-mail】BJ0010@pref.iwate.jp



毎月、いわいずみ台風災害復興かわら版を発行しています↑↑↑

【復興支援道路】 立丸第一トンネルの貫通式を開催！

県南広域振興局土木部遠野土木センター

県が「復興支援道路」として整備を進めている、一般国道 340 号「立丸峠工区の立丸第一トンネル (L=1,839m)」が、着工から約 2 年の歳月をかけ貫通し、平成 29 年 9 月 1 日に貫通式が開催されました。

貫通式には、県、遠野市、宮古市、地権者、地域の代表者、遠野市立土淵小学校及び宮古市立川井小学校の児童、工事関係者等、約 200 名が出席しました。

貫通発破



小学生による貫通点通り初めの万歳三唱



貫通した光の先が遠野市側



最後に、参列者全員で記念撮影



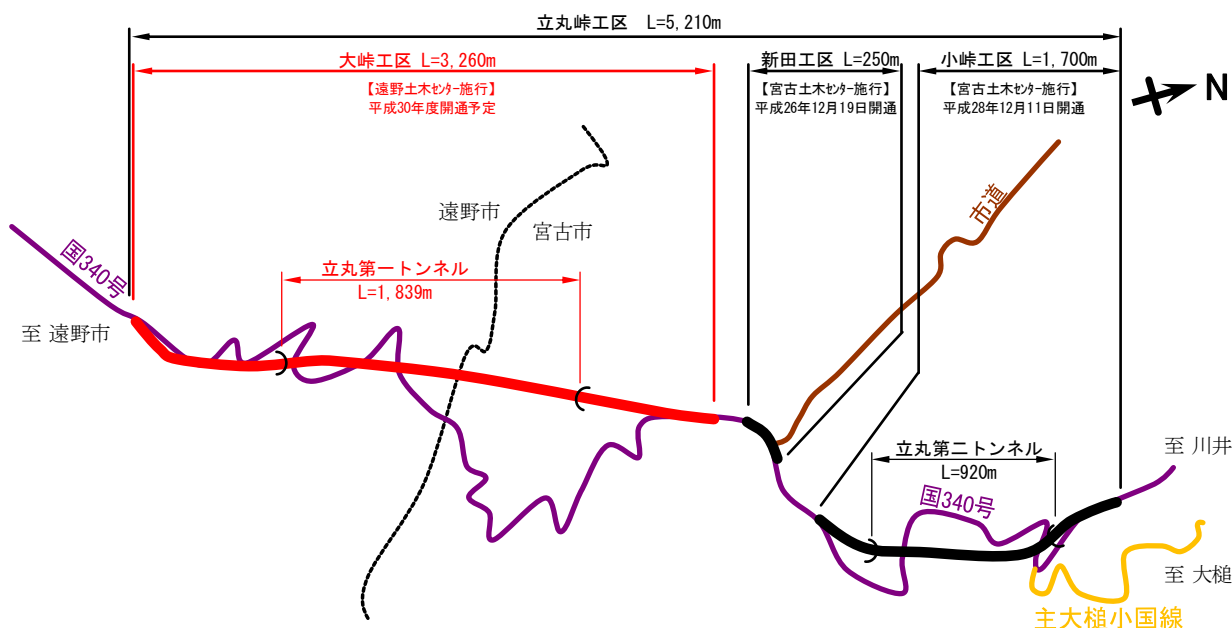
土淵小学校、川井小学校の児童からは、立丸第一トンネル貫通を迎え、開通への期待や工事関係者への感謝の気持ちなどを作文にして発表していただきました。

平成 30 年度開通に向け、仕上げの段階に入ったトンネル工事。子どもたちからのエールを胸に、完成に向け今後も無事故・無災害で復興への道を繋いでいきます。

【一般国道 340 号立丸峠工区事業概要】

一般国道 340 号は、北上高地を縦貫する唯一の幹線道路として、防災や地域間交流を支える重要な路線であり、東日本大震災津波の際は、後方支援拠点となった遠野市と沿岸市町を結ぶ「命の道」として大きな役割を果たしました。しかしながら、立丸峠付近では未だ幅員が狭く、急カーブが連続するなど交通の難所となっているため、本事業により立丸峠の幅員狭小区間、線形不良区間の解消が図られるとともに、速達性が確保され、緊急輸送道路としての機能が強化されます。

開通により遠野市と宮古市の連携強化が図られ、災害時の救助・救援・物資輸送などの緊急輸送道路としての確実性の強化や救急医療施設へのアクセス性の向上、観光ルートへの強化などが期待されます。



幅員が狭くすれ違いが困難な箇所、急カーブの連続などが課題となっていた(写真は平成 24 年時点)

釜石港でガントリークレーンの供用を開始

沿岸広域振興局土木部

大阪府から譲渡を受け釜石港へ設置作業を進めてきたガントリークレーンを、9月23日に供用開始しました。

釜石港では、東日本大震災津波後の平成23年7月に国際フィーダー定期航路が就航し、コンテナ貨物取扱量を順調に伸ばしてきていること、また、今秋に外資定期コンテナ航路が開設される見込みであることなどから、ガントリークレーンの導入が喫緊の課題となっていました。

そのような中、震災復興のために、大阪府から大船渡土木センターに派遣された応援職員との縁がきっかけとなり、大阪府からのガントリークレーン譲渡が実現しました。

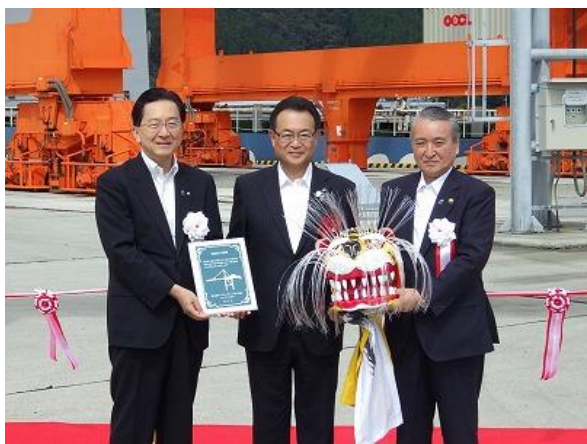
釜石港で開催された供用開始の式典では、大阪府へ感謝の意を表し、達増知事から大阪府竹内副知事へ「記念の楯」を贈呈しました。また、ガントリークレーンのデモンストレーションが行われ、コンテナ荷役を披露しました。

ガントリークレーンの供用によって、大型コンテナ船への荷役対応が可能となります。今後、本県の物流の更なる発展が期待されます。



テープカットの様子
(中央に達増知事、左に野田釜石市長、右に竹内大阪府副知事)

コンテナ荷役のデモンストレーション



大阪府竹内副知事へ、達増知事から「記念の楯」、野田釜石市長から「虎頭」を贈呈

建設 ICT 現場見学会 & 講習会を開催しました

建設技術振興課

県土整備部では、建設現場の生産性向上のためICT活用工事に取り組んでいます。取組はまだ始まったばかりですが、県内建設企業及び発注機関等の関係者の建設ICTへの理解を深めるため、活用事例を題材に見学会等を実施しています。

8月28日から9月4日にかけて、4箇所で見学会を、2箇所で講習会を開催しました。

【ICT活用施工のイメージ】

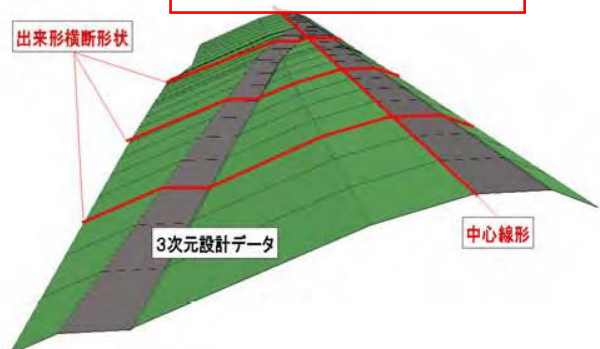
建設現場においてICTを活用した施工をするため、まずは①UAV（無人航空機。いわゆるドローン）等を用いて3次元測量を行います。次に3次元測量結果を用いて②3次元設計データを作成します。そして3次元設計データをICT建設機械に入力し、③画面の案内に従って掘削や盛土を行うマシンガイダンス技術や、④刃先の角度や高さを機器が自動で制御するマシンコントロール技術を用いて施工をします。

ICTを活用した施工により、工期短縮、作業の効率化、人手不足の解決、安全性の向上、書類の削減等が期待されています。

①UAVによる測量状況



②3次元設計データのイメージ



③マシンガイダンスによる施工状況



④マシンコントロールによる施工状況



【現場見学会&講習会】

当日は、県や市町村職員のほか管内の建設業者も参加し、各工事の概要説明やICT建機を用いた施工状況の見学、建機への試乗、意見交換が行われました。

また、8月30日と9月1日には、ICT活用施工に取り組む社会的背景や基礎知識についての講習会を合わせて開催しました。

日付	工事名（現場所在地、受注者）	参加人数	施工概要
8/28	一般県道二戸軽米線長嶺地区 法面工工事（二戸市、㈱丹野組）	約 30 名	UAV出来形測量 マシンガイダンスバックホウ
8/30	岩手県立千厩高等学校グラウンド 整備工事（一関市、横田建設㈱）	約 35 名	マシンコントロールブルドーザー マシンコントロールバックホウ マシンガイダンスバックホウ
9/1	一級河川岩崎川筋北矢幅地区 河川改修（その6）工事（矢巾町、㈱水清建設）	約 70 名	レーザースキャナー出来形測量 マシンガイダンスバックホウ
9/4	二級河川気仙川筋木場地区緊急避難路 整備工事（陸前高田市、㈱明和土木）	約 25 名	マシンガイダンス振動ローラー



二戸市長嶺地区
マシンガイダンスバックホウによる
法面整形の説明



矢巾町北矢幅地区
3D 測量・3D 設計を担当した設計会社から
パソコンの画面で説明



現場見学会の後に会議室で
ICT の基礎知識について講義



施工状況を
タブレット端末で管理

陸前高田市木場地区
振動ローラーに試乗